

ふみつき July 7月

あおもり

医療センター大森病院
大田区大森西6-11-1
☎03-3762-4151(代)



病理診断科 柄木 直文

医学部の東隣、大森病院の北東に公立小学校があるのをご存じでしょうか。朝夕に児童の元気な声が聞こえてまいります。この学校は大田区立大森第三小学校といいまして、わが東邦大学とほぼ同い年であり、数年後も百周年を迎えます。近隣であります。

さて今から3年前、大森第三小学校から小学校6年生に対する「がんに関する講義」の依頼があり、本学中村陽一先生がお話をされました。当時私は大森第三小学校のPTA会長を務めていたこともあり、写真撮影係としてその場におりました。がん対策基本法の第二十三条には「国及び地方公共団体は、国民が、がんに関する知識及びがん患者に対する理解を深めることができる、学校教育及び社会教育におけるがんに関する教育の推進のために必要な施策を講ずるものとする。」とあり、各学校に対して、外部講師を活用して、がんに対する教育を行うようにとの通達が出ており、近隣校からも同様の依頼が舞い込むようになりました。

令和2年度には12校にお伺いしました。実質3年で、お話しした児童は4000人を越えました。「がんプロ」としても、がん全体としての様々ながん教育推進のお役にたつべく、病理診断業務を通してがん診療の一翼を担う者として、今後もお声がけいただきますたら、可能な限りお伺いできるようになります。

(病病森・准教授)

小学校におけるがん教育 医師としての社会貢献の一例



りました。

医師の立場からするとがんの話は「理科」の範囲だと思っておりましたが、実際は保健体育であるため、管理職教員や担任教師とともに養護教諭とお話をする機会が増えました。また、がんには生活習慣病の側面がある、ということが前面に出ているため、禁煙や節酒に加えて、バランスのとれた食生活といった「食育」の話もしています。適切な体重維持ということで、私の十年前の写真を出して、当時から25kg減量した、という実体験も披露しております。数字が独り歩きしないように心がけています。外部講師に対する講習会も開催されたり、何度か受講しています。学校側と外部講師とがお互い「丸投げをしない、されない」ことに留意するように、とのことで45分の授業時間を数分残して質疑応答の時間を作るようになっていますが、誤差があります。45分の授業時間で質疑応答の時間がかかるのが、誤差が生じてタイムが鳴ってしまうことも珍しくありません。

大田区の小学校から始まった話ですが、大田区の小学校から始まつた話ですが、小学校3・4年の学級担任であった恩師が豊島区の学校をしてことから、大田区内でも各校によって特色がありますが、区外へもお伺いするようになりました。大田区内で出るいろいろ違ったことが見えます。また、当院は地域がん診療連携拠点病院であることから東京都教育厅から外部講師派遣依頼があり、近隣の高等学校や特別支援学校にもお伺いしました。このご時世ですので各教室の対面ではなく別室からの遠隔配信や、別振りにおいて質疑応答だけ生放送、ということもあります。

令和2年度には12校にお伺いしました。実質3年で、お話しした児童は4000人を越えました。「がんプロ」としても、がん教育の推進が重要課題となつており、本学全体としての様々ながん教育推進のお役にたつべく、病理診断業務を通してがん診療の一翼を担う者として、今後もお声がけいただきますたら、可能な限りお伺いできるようになります。